



研究開発第3年次公開研究会

附属幼稚園・小学校

2011年11月11日（金）、附属小学校と附属幼稚園は、「幼小一貫教育において『読解と表現をくつなぐ』論理的思考力』を育成する教育課程の研究開発」の主題のもと、文部科学省研究開発学校第3年次の公開研究会を開催しました。各地から240名の先生方がご参会くださいました。

本研究会では、まず初めに全体会で野口誠之学長のご挨拶をいただきました。その後、本研究開発の概要の説明を行い、引き続き午前中に幼稚園の公開保育や小学校の公開学習を2時間分参観していただきました。午後からは、3つの協議会に分かれて、これまでの取り組みを発表し、参会者の方からも貴重なご意見をいただきました。最後に、東京学芸大学の平野朝久先生が、ご講演「自然体で学び、育つ—内から育つ子ども—」で子どもたちの学びの本質をとらえたお話をしてくださいました。

幼稚園での初等教育前期の保育は、「あつめてあそぼう、かんじてあそぼう」（3歳児）、「あつめてあそぼう、かんがえてあそぼう」（4歳児）をテーマに、秋の自然に触れながらそれを様々な遊びに生かしている姿を見ていただきました。この時期に大切にしたい「主体的に遊びを選び十分楽しむこと」「十分に素材に触れその特徴を体験的に得ること」「先生や友だちと共に遊びを楽しむこと」などを保育の中で実践し、午後の分科会ではこれらが「論理的思考力」の育成につながることを確認できました。

小学校の体育館では、5歳児ほし組、1年生組、2年生組の子どもたち110名による「なかよしひろば」を1時間公開しました。「『奈良さんぽ』の表現を作ろう」という内容です。4月当初から、110名を6グループに分けて、いっしょに活動する1グループを20人程度にしました。さらに20人を5つか6つに分けて、3〜4人にし、2年生、1年生、5歳児が交ざるように構成しました。当日は、班ごとに6カ所に分かれて、発表を聞き合い、おたずねや

感想を伝え合いました。3学年による異学年交流活動の中で、互いに年齢上の役割を自覚し、気を遣いながら活動していた様子が見られました。

また、朝の会では、初等教育中期課程の1年生、2年生が自由研究の発表を行いました。初等教育後期課程（3年〜6年）では、今年度は、新たに「ひらめき」の時間の独自学習を公開しました。さらに、後期課程の2クラスは、協議会代表授業として、相互学習に取り組みました。それは、4年月組の「この便利なくらしを続けるには・・・～お米と野菜と私たちのくらし～」と、5年月組の「くらしを支える産業を調べよう～エネルギーを考える～」の学習でした。

独自学習では、子どもたちが、それぞれの学習のテーマに沿って資料を集め、ノートに考えたことやまとめたことを書き留めていました。そして、自分の構想に沿って、時には担任教師のアドバイスも求め、より良い学習を作り上げようとするのが論理的思考力を高めていくと考えました。

相互学習では、それぞれの子どもの「独自学習」の結果を交流し、その結果を吟味・検討しながら新たな考えを作り出すことを大切にしたいと考えていました。比較したり、関係づけたり、広げたりしながら、テーマや問いに沿って、情報や考えを再構成し、自分の考えを深化させられたという実感をもつことが、論理的思考力を高めていく道筋だととらえました。

平野先生は、「はじめに子どもありき」の学習者観など、教育の原理、教材や教材研究、学習の進め方など、子どもの追究の必然に沿うあり方を具体的にお話くださいました。

本公開研究会の成果と課題から学びを深め、小学校と幼稚園の全教諭で力を合わせ、今後も研究に取り組んでいきたいと思います。



附属中等教育学校では、「PISA型学力の先をみつめてーリベラルアーツの教育実践ー」と題し、2011年11月22日（火）～23日（水）の2日間、公開研究会およびSSH研究成果発表会を開催いたしました。

OECD（経済協力開発機構）の生徒の学習到達度調査「PISA」を研究テーマに位置づけましたので、OECDのパリ本部からシニアナリストの田熊美保氏を2日間むかえました。

1日目は「就学前（保育園幼稚園）教育の〈格差〉は中等教育で〈無化〉できるのか」と題して公開インタビューをおこないました。この公開インタビューでは、田熊氏から諸外国の幼児教育の課題や課題の克服の状況、そして日本の幼児教育の課題や課題克服の状況などをご紹介いただきました。また、本校の立地する地区の小学校教諭高橋一博氏も迎え、小学校の現場からの〈格差〉の実感や小学校での〈格差〉の解消の事例などについてご紹介いただきました。フロアの参加者の方々とともに、田熊氏による世界的な幼児教育の状況のご紹介と日本の学校現場での教師の実感とが会う場を作り、〈無化〉の可能性が高まるようなアイデアや希望を生み出そうと試みた企画でした。



2日目は、本学の野口誠之学長に挨拶を頂いたあと、II期SSHの概要についての説明を行いました。続いて、「教育の国際的動向から見る日本の教育ーOECD教育政策分析を切り口としてー」と題したパネルディスカッションをおこないました。



パネルディスカッションには、指定討論者として、文部科学省教科調査官の田代直幸氏、京都大学大学院工学研究科教授の乾晴行氏、そして本校数学科教諭の川口慎二氏に加わっていただき、奈良女子大学文学部教授の西村拓生氏のご差配の下、討論していただきました。このパネルディスカッションは、本校のコアSSHの研究主題を切り口としたもので、日本という枠組みや既存のパラダイムを軽々と超える「イノベーション創造の先駆者」のような、日本の国際的評価を維持できる人物の育成のための「国際連携における中高生の理数の才能」とはどのようなものを想定するのか、ご意見やご提案をいただきました。

そして、本校のSSHは「中等教育6年間において、自然科学リテラシーを基盤とするリベラルアーツの育成」を目標に掲げていますので、「21世紀に求められるCitizenship（市民的素養）」とは一体どのようなものなのか、指定討論者の方々よりご意見やご提案をいただきました。

上述の2つの切り口の議論や提案がリンクすることによって、国際連携での理数教育という観点とシチズンシップの涵養が会うところに、新たな教育のパラダイムの芽が生まれることをねらいとした企画でした。

また、本校の基盤である授業も公開いたしました。今年度は、社会科・創作科・保健体育科・国語科・理科・数学科が授業を公開、活発な研究協議が行われました。どの教科も「リベラルアーツ」とは何か、授業で実践するとしたらどのようなことが試みられるのかといった問いをみずから発する、じつに挑戦的な授業実践を公開いたしました。

本校の教職員をはじめ、2日間でのべ125名の参加者の方々のご協力をいただき、賛否両論さまざまな議論がなされた、内容のあつい公開研究会とすることができました。お礼申し上げます。



冷暖房設備が設置されました

附属幼稚園・小学校

附属幼稚園・附属小学校には、平成22年度までは特別室や管理棟にしか冷房設備がありませんでした。また、冬場の暖房は長い間重油をボイラーで炊き、温めた水を循環させる方式によるものでした。

一昨年の夏は、異常なほどの暑さでした。気象庁の発表によると、統計を開始した1898年（明治31年）以降の113年間で最も高かったということでした。9月になっても暑さは収まらず、連日30℃を超える暑さが続き、2階の教室では、朝から教室の温度が36℃近くになることもありました。そこで、5・6年生の授業は、冷房設備が整っている特別教室で行うなど工夫しました。

地球温暖化の中、温室効果ガスの抑制もしなければなりません。学校においては子どもたちの安全で安心な教育環境を整え、命を守ることが重要です。折しも、幼稚園と小学校では、創立100周年記念事業の一環として、卒業生や育友会、後援会からいただいた寄付金で、空調設備を整える話が持ち上がりました。そこで、小学校は、さらに昨年4月から全保護者にご協力いただき、一定の額を集めました。また、大学も

子どもたちのために理解を示し、資金を拠出してくれました。小学校では、来年度も含め、2年計画で全教室に空調設備が設置されます。幼稚園では、今年度で全教室に設置されました。

それまで暑さのために思考力が途切れたり、集中力が続かなかつたりすることもありましたが、昨年の夏から快適な環境の中で活動や学習が進められました。また、冬場は暖房の利いた部屋で、安心して園の生活や学校生活を送っています。

関係者の皆様に深く感謝する日々です。



附属幼稚園TOPICS 「第2回ファミリーデー」

附属幼稚園は、今年創立百周年の式典と祝賀会を行います。幼稚園には同窓会組織がないため、幼稚園と保護者とで創立百周年記念事業実行委員会を組織して各種事業を計画し、保護者と一体となって準備を進めています。

百周年記念事業の一つとして、平成22年度に引き続き、百周年への思いを高めていけるように、昨年11月26日に「第2回ファミリーデー」を開催し、その中で「なかよしのおみせ」を企画しました。

子どもが夏休みに家の仕事をして100円を貯め、そのお金で買い物をするという企画です。この企画の目的は二つあります。一つはお金の大切さを知るといことです。お金は労働の対価として得られるもの、自分の使っているお金はお父さんやお母さんが一生懸命働いてくれたお金であること、だから大切に使わなければならないことを感じて

ほしいと思いました。もう一つは東日本大震災のことを子どもなりに自分ごととして感じる・考えることです。「なかよしのおみせ」の収益金は、子どもたちと共に考えて被災地に何かの形で送りたいと思っています。

「なかよしのおみせ」には、フェルトやビーズ等を使った手作りのお寿司やキャンディー、種から育てた花苗や草苗の寄せ植えなどの商品を文化活動部の保護者の方が作るなど多大なる協力をしてくださいました。また、餃子のお店「点天」も企画の主旨に賛同し、親子餃子教室やふるまい餃子などの催しをしてくださって大盛況でした。他にも、バザーやゲームコーナー、食品コーナーなどたくさんの催し物があり、幼稚園関係者だけでなく地域の方々にも喜んでいただき、百周年に向けてお祝いの気持ちが高まりました。



附属小学校TOPICS 「学校安全に対する保護者の取り組み」

附属小学校では、年間を通して保護者の協力や企画による安全対策が進められています。日頃の登下校、学校生活や校外学習時の安全見守りに始まり、育友会補導部による通学の安全確保や交通安全に対する意識向上のための広報など、定期的に活動を行っています。

また、夏休み明けには、環境整備活動として、お父さんたちを中心にお母さん方や子どもたちも集い、敷地内の草刈りや溝掃除に汗を流しました。おかげで、運動場のフェンス沿いの見通しがよくなり、外部からの侵入者警戒にいっそう効果が出ました。

10月の秋の運動会では、学校周辺の巡回や不審者が立ち入らぬよう正門前の管理を積極的に行っています。

また、12月の歩走練習期間中には、補導部のお母さん方が中心になって、子どもたちが走るコースに立ち、安全確保や交通整理に勤めました。納めの会では、鴻池陸上競技場でボランティアの保護者も加わり、立哨、道案内などで協力しました。

内などで協力しました。

11月19日には、テーマ「防犯・防災～命・キズナ・なかよし～」を掲げ、お父さんたちの企画によるPTCC全体行事をもちました。各学年の取り組みは、

- ・知らない人に声をかけられた際の防犯劇。護身術の実演と体験（3年）
- ・災害救助犬の訓練の様子（1年）
- ・何も見えないところを進んで行く煙道空間の体験、非常食や炊き出し、防災グッズや災害当時の写真の展示（4年・5年）
- ・防犯・防災に関するクイズ（2年）
- ・学校周辺の危険箇所を撮影したビジュアル教材を用いた学習（6年）

など、時間をかけた大がかりな内容でした。子どもたちは、心に残る貴重な学習を体験し、防犯・防災への意識を高めることができました。



附属中等教育学校TOPICS 「コアSSHプログラム ASTY Camp & SCoPE」

附属中等教育学校は、昨年度に引き続きコアSSHの指定を受け、中高生によるサイエンスをおとした様々な国際交流を実施しています。

昨年度本校にて実施したサイエンスキャンプ“ASTY Camp(Asia Science & Technology Youth Camp)”の成果と課題をふまえ、今年度は対象生徒の異なる2種類のサイエンスキャンプに取り組みました。

7月18日～24日には、理数を得意とする生徒の才能をさらに伸ばすことを目的とした“ASTY Camp”が台湾で開催され、日本、韓国、台湾、シンガポール、インドネシアの5カ国の生徒が参加しました。当日は、台湾国立海洋生物博物館などの見学や、燃料電池の作成等の実験活動を行いました。本校からは東日本大震災に関連して、福島原発事故に関するプレゼンテーションを行い、多くの聴衆の関心を引きつけました。

また、8月17日～23日には、より多くの生徒が海外の生徒とともに理数の交流を行うことを目的とした

“SCoPE(Science Communication Program for Every student)”を本校にて開催しました。昨年度までの参加国である韓国、台湾に加え、シンガポールが新たに加わるとともに、奈良高校をはじめとする奈良県内の他校生の参加など、より多くの参加者を募ることができました。ワークショップ当日、慣れない英語での議論に対する教師の不安をもちもせず、生徒は積極的な生き生きとした表情で共に科学を楽しむ姿が印象的でした。ポスターセッション当日には、運営指導委員の先生方や本学の野口誠之学長に講評をいただき、高い評価を得ることができました。

肌で感じる科学の共通性に感動しながらも、課題に対する思考の違いに驚きを覚える日々。国を超えてサイエンスを楽しむことのできる特別な夏になりました。

